

一般社団法人ペアチル 団体紹介資料

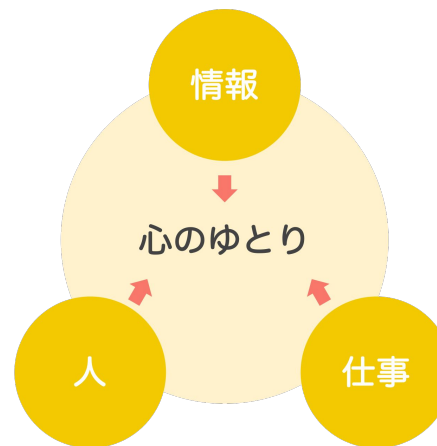


VISION

親子で心にゆとりのある時間を
すごせる生活にする

MISSION

情報・人・仕事とひとり親を紡ぐ



情報・人・仕事との出会いが十分あることで
経済的なゆとりが生まれ、
「心のゆとり」ができる循環に繋がります。
この循環を生むために包括的に支援していくこと
を目指しています。

ペアチル設立背景

主に3つの背景があり、ペアチルを一人で設立し、大切な仲間と今はひとり親の望まない孤独を解消するために奮闘している

1. 養育費の不払い問題を解決したく、元ZOZO前澤友作氏に出資をうけ、株式会社小さな一歩で事業統括した経験

日本には未来分も含め約10兆円の養育費の不払いがあります。この問題を解決するために養育費保証サービスを立ち上げました。サービス開始から1ヶ月で1万名ほどの申込があり、養育費不払いがいかに深刻な問題で、問題を抱えている人が多いか実感しました。ただ、申込して下さったひとり親のママさん・パパさんに問題をヒアリングする中で、養育費以外の困りごとが本当に多数あると知りました。代表の南は母子家庭で育てっており、子の立場から母の困りごとを知ってはいましたが、日本のひとり親家庭には私の知らない苦勞が多数あると実感し、ひとり親家庭にある養育費以外の問題にも向き合いたいと強く思うようになり、ペアチルの構想を始めました。

2. 一人で私と妹を懸命に育ててくれた母への恩返し

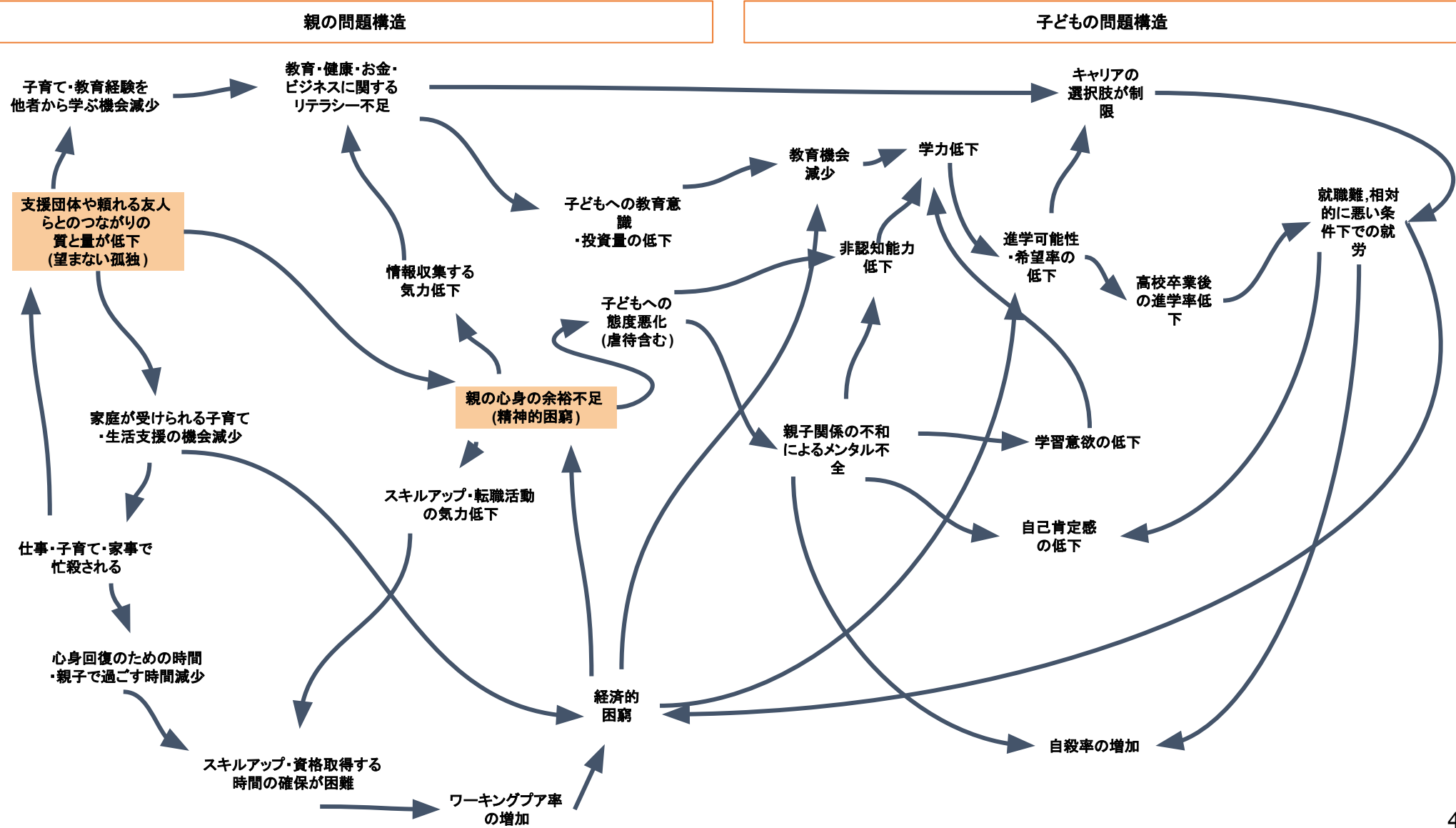
私の母は、私が2歳・16歳の時に2回離婚しており、元旦那からDVされていても私と妹を無償で愛し、懸命に育ててくれました。頼れる人は実母しかいない中、元旦那からひどいことを毎日のようにされている姿をみて、子どもの私は母を励まし、傍にいたいことしかできず、悔しい想いをしました。「母の助けになるためにはどうしたらよいか」悶々と考えては何もできない自分を責めることが何度もありました。そんな後悔をはらすため、これまで発達障害・法的被害者の泣寝入り・養育費の不払いなどの社会問題に対して事業をつくってきた経験を活かし、母への恩返しもこめて、母のように大変な想いをしていく全国のひとり親の方々のお力になるべく、団体を創ろうと決断しました。

3. 親がハッピーじゃないと、子どもがハッピーになりづらい

現ペアチルのメンバーの一人と、教育学部の大学時代から教育・福祉分野で学生団体をつくり、貧困家庭の子ども・障害のある子どもに向き合っていました。ご縁のあった住職さんにお寺を借りて、貧困家庭の子どもや学校でいじめにあった子どもへの居場所事業を実施していた時、「居場所に子どもが来て、元気になってくれたり、問題が解消されたりしても、家に帰って親との関係が良好じゃないと、また精神が崩れてしまい、居場所に来る」という負のサイクルになっていることに気がつきました。以前は子どもの健やかな成長のために「子ども」に目を向けて活動していました。しかし、このサイクルに気がつき、「親が精神的・経済的・社会的に豊かになり、心にゆとりが生まれないと、子どもの成長を阻害してしまう可能性がある」と実感したため、まずは親の幸福度を高めるための活動が必要だと考えるようになりました。

ペアチルが向き合っている社会課題_親の問題と子の問題の構造

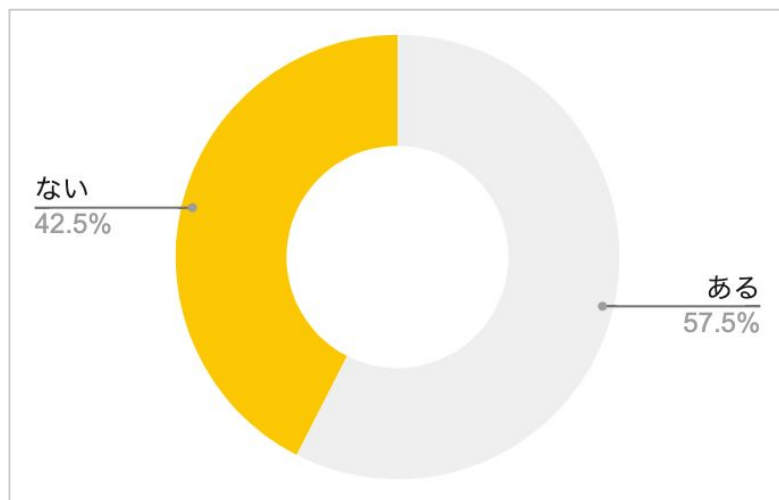
私たちが向き合っている社会課題はひとり親の「望まない孤独」です。望まない孤独が精神的困窮・経済的困窮を起こしており、子どもの貧困連鎖・教育格差の構造的な要因になっている。



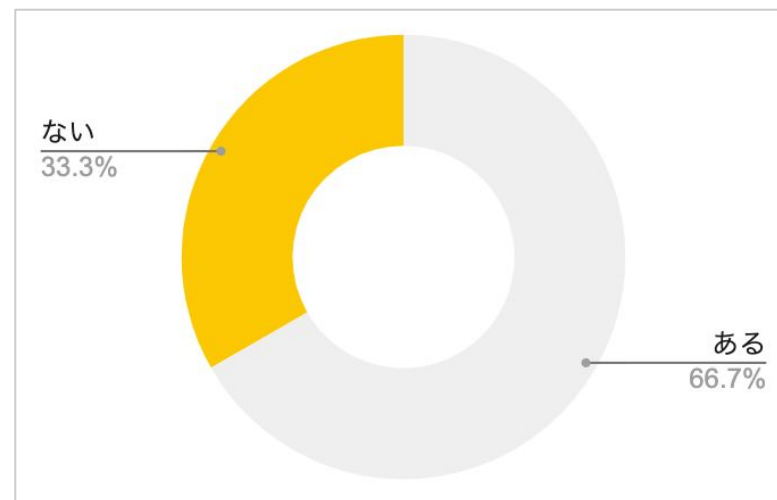
ペアチルが向き合っている社会課題_ひとり親は頼れる相手が少ない

母子・父子家庭ともに約3人に1人が親同士の交流がない、頼れる相手がいない
独自調査でも、100%のシングルママ・シングルパパが子育て、お金、仕事、生活のやりくりなどについて相談・雑談・励ましあいができるひとり親、もしくは自分と境遇が似ているひとり親との繋がりを求めていると回答

子どもを通じた親同士の交流_母子家庭



子どもを通じた親同士の交流_母子家庭



出典:東京都福祉保健局『ひとり親家庭の相談状況等に関する調査』(2019)

調査したひとり親のリアルな声

- 死別で離婚したシングルファザーがいなくて、ひとり親のコミュニティにいったが共感できることが少なくあまり意味がなかった
- 周りに重めのADHDの子どもがいるシングルの人がいなくて、悩みを話しても「大変だね」って言われるだけだった、、、
- ママ友同士の助け合いがあれば、子どもの送り迎えやちょっと家で預かってもらうなど融通が効くが、社会的ではない人にとっては難しい
- 息子が成人して自立したけど家にほぼ引きこもっている。こんな状況と似たような境遇のひとり親が周りにいなくて、自分一人ですべてをこなさなければならない
- 周りに同じ境遇の人が全くおらず、相談やちょっとしたお話もできないことが悩みです。会社では自身のことは全く話せません。おそらく理解できないでしょうし、聞く方は疎ましく感じられると考えるからです。悩み、相談とまでいなくても、日常のちょっとしたことを話してできる仲間が欲しいな、というのが本音です。

日本は世界に先駆けて「孤独」を深刻な社会問題と捉えており、閣僚級ポストを設置して対策し始めている

ひとり親になることによって、孤独感スコア・K6スコアが増加する傾向にあり、「ひとり親と人・情報・仕事」を適切に、かつ迅速に紡いでいく必要性がある

世界2カ国目の 孤独・孤立対策担当大臣任命



出典: <https://diamond.jp/articles/-/267104>

日本は2021年に、世界2カ国目の孤独・孤立対策担当大臣を設けるなど、「孤独」が深刻な社会問題だと世界に先駆けて捉え、対策し始めている。

家族との死別・離別経験者の 孤独感スコアが高い

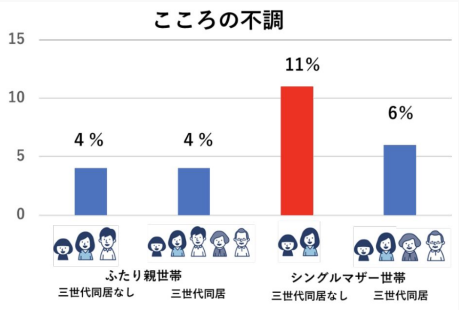
【図1-63】現在の孤独感に至る前に経験した出来事（直接質問）【複数回答】



出典: 人々のつながりに関する基礎調査(令和3年)

内閣官房孤独・孤立対策担当室の調査によると、ひとり親の方が多く経験している死別・離別などが孤独感スコアを増加させている。

シングルマザー世帯はふたり親世帯と比べてK6スコアが高い

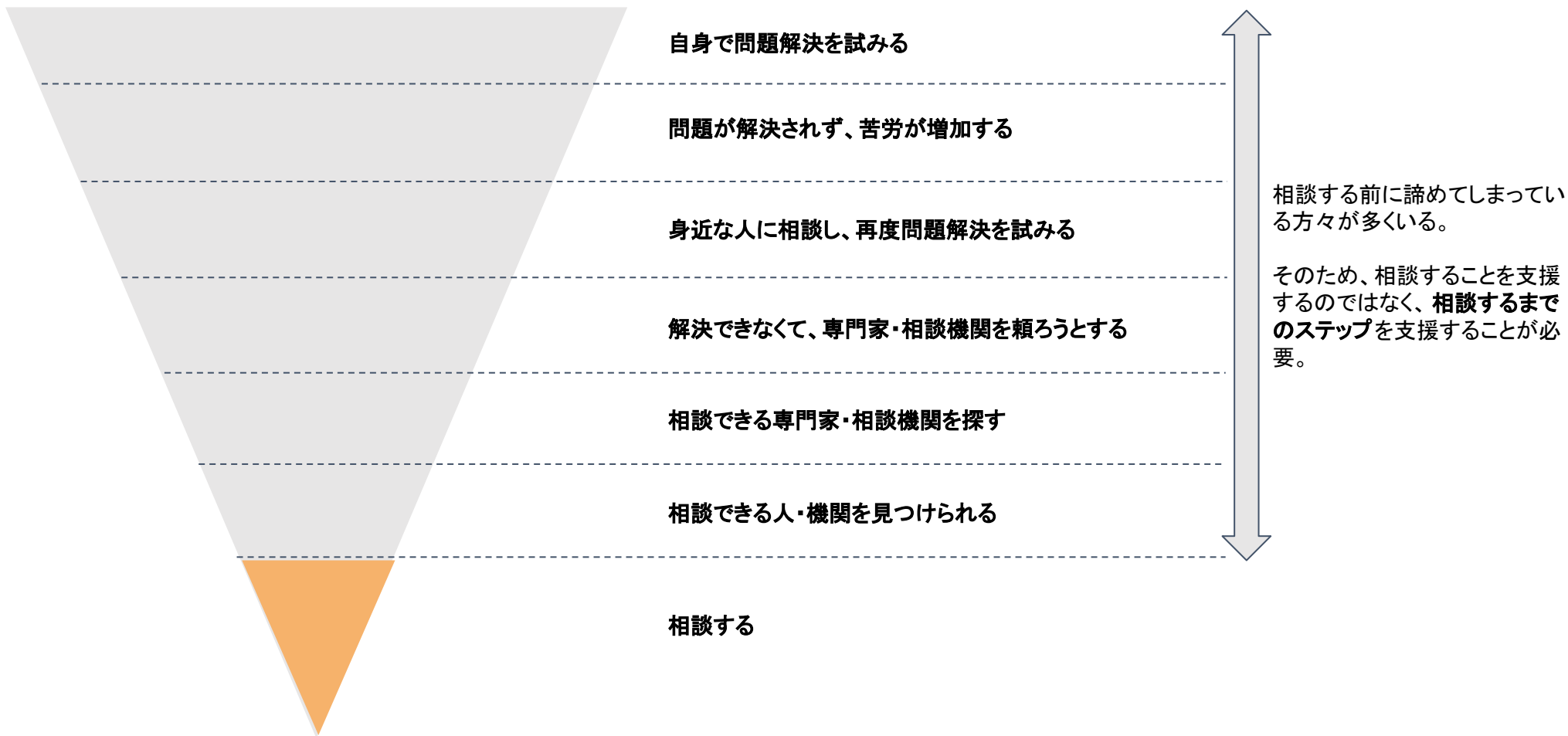


出典: 国立成育医療研究センター(令和3年)

精神疾患のスクリーニングで用いられるK6スコアがひとり親になることで高くなっている。つまり、ひとり親になり1人で苦勞を抱え込んでしまうなどで心が不調になる人が増加する。

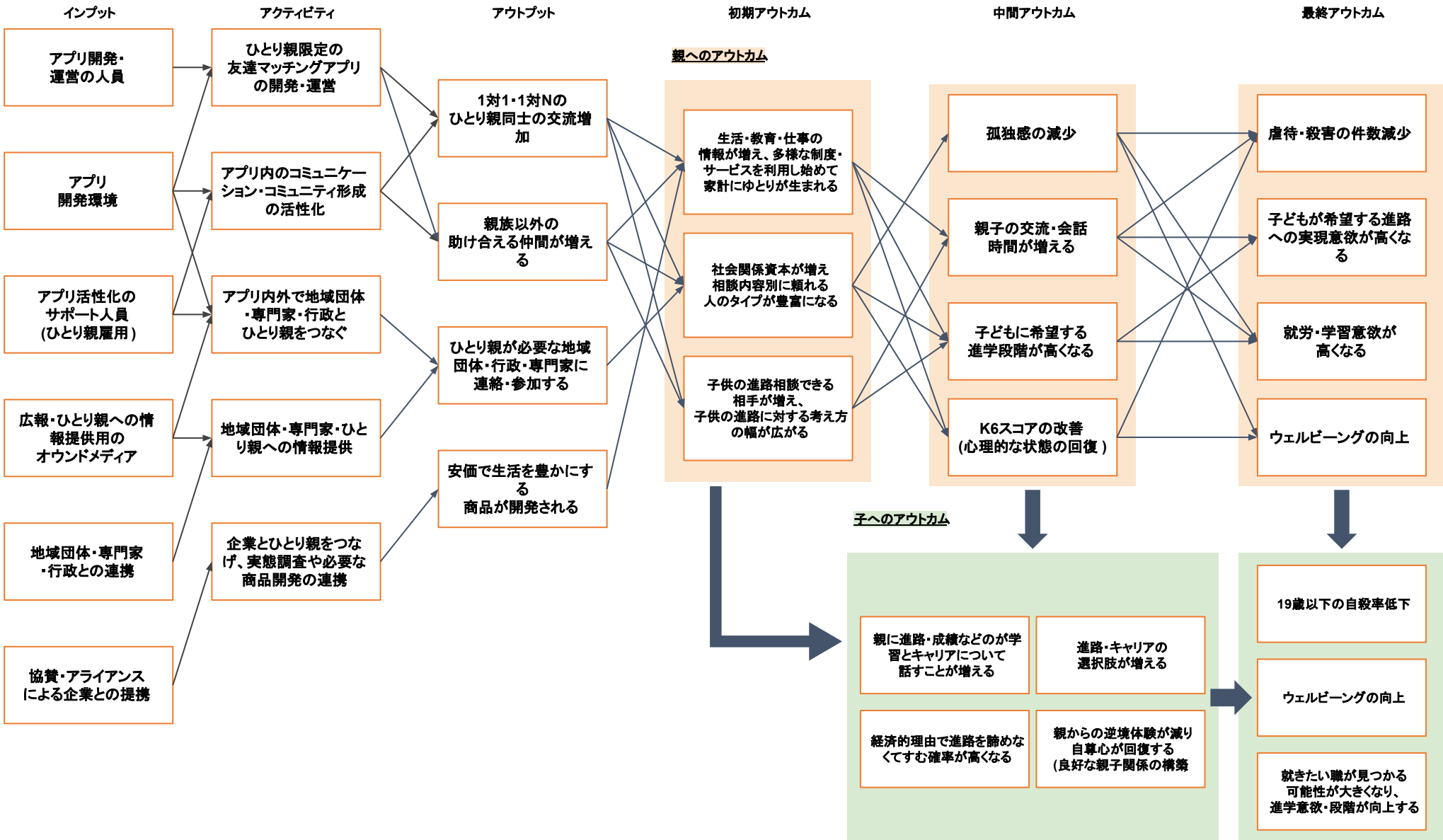
ペアチルが向き合っている社会課題_行政・支援団体に頼れるひとり親は限定的

調査により、ひとり親の方が問題解決しようと試みるステップの内、行政や支援団体に相談できる方はわずかである
認定NPO法人フローレンスの調査でも、全国の子育て世帯の約80%が自治体の窓口を利用したことないと回答
「相談者⇄相談機関や民間団体」の関係だけでなく、手前に「相談者でもあり、アドバイザーにもなりえる人(当事者)同士」の関係づくりが
欠かせない状況である



ロジックモデル(ペアチルの事業によるアウトカム)

ひとり親の「望まない孤独」を解消することで、子どもへの貧困連鎖防止・質の高い家庭教育の実現を目指す



ひとり親限定のチャットアプリ(ひとり親の方はすべての機能を利用できる)

望まない孤独解消を目指し、まずは似た境遇のひとり親同士の交流が誰でもスマホで簡単にできることを目指す(ピアサポートの促進)

主な機能

- ・現在ひとり親の方、過去ひとり親だった方子供が成人した、再婚したなどのみ利用できる(実名/匿名は自由選択)
- ・お住まい、年齢、子どもの人数などの基本情報だけでなく、「調停離婚した」「死別でひとり親になった」「BHDの息子がいる」などの境遇でもマッチング可能
- ・お酒、お出かけなどの共通の趣味をもったひとり親を探すことができる
- ・1対1、グループのチャットができる
- ・本人確認、ひとり親証明をすることで、安心してアプリを利用できる

アプリへのひとり親の意見(一部)

- ・恋愛じゃなく、気軽に話せる友達がつくれて、理解しあえるひとり親の人を探せられるまさにこんなアプリが欲しかった
- ・ちょっとしたストレスを吐き出し合ったり、褒め合ったりできる人を探せるのは有難い
- ・とてもいいコンセプトだと思いました。ひとり親はなかなか表立って友達を探すことができないので。(ひとり親じゃない方からしたら『何でひとり親になったの?』と詮索されそうで嫌だというのも理由の一つです)
- ・考え方や受け取り方で子育てがガラッと変わります。理解や興味を示してくれる仲間が増えたら気持ちがすごく楽になると思うので嬉しいアプリだと思います



アプリイメージ画面

ひとり親限定のチャットアプリと既存サービスの比較表

既存の代替サービス・制度では、利用しづらさ、出会いたい人と出会えないなどの課題があるため、「閉ざされた空間」で「話したい人とだけ話せる状況」をつくり、「理解しあえるような似た境遇のひとり親同士が数分以内に出会える」必要がある

	ペアチルの アプリ	自治体や支援団体 の相談窓口	リアルの コミュニティ	Facebookグルー プ等のオンラインコ ミュニティ	Twitter・Yahoo!知 恵袋などのQ&Aサ イト
利用障壁の低さ	◎	×	△	○	◎
参加後の活用率 (会話率)	◎	○	○	×	△
誹謗中傷の 危険性の低さ	○	◎	◎	○	×
求める人との 出会える率	◎	△	○	△	○
悩み解消率	◎	○	○	△	○

「仕事・育児・家事によって時間の貧困状態になっているため、自治体等が運営するリアルコミュニティ（イベント）に参加できる都合をつけられない」、「コミュニティに参加できたとしても、すでにある和の中に入りにくく、困りごとの本音、気軽な雑談が人によってはできないため、コミュニティが機能していない」、「TwitterをはじめとしたWebサービスによっては、自身の境遇を発信することで、ひとり親じゃない人から誹謗中傷を受け、心身を痛める」といったひとり親からの声があり、既存サービスだけでは解決しきれない課題がある。

事業の進行状況

世界的に使われているスタートアップ・フィット・ジャーニーの内、2ステップ目までは実施完了(参考:<https://review.foundx.jp/entry/startup-fit-journey>)

残すは2023年4月の本番用アプリを公開し、残りの2つのステップをクリアできることを目指す状況である

	Customer/ Problem Fit	Problem/ Solution Fit	Solution/ Product Fit	Product/ Market Fit
必要な問い	<ul style="list-style-type: none">ペアテルが捉えているひとり親の問題が適切かどうかひとり親の問題やその要因を構造的に把握できているか	<ul style="list-style-type: none">ひとり親の課題を解決できる案があるかその解決策で本当に解決したいひとり親の課題を解決できるか	<ul style="list-style-type: none">その解決策を商品化できるか商品の価格、機能、認知拡大チャンネル、プロモーションをどうするか	<ul style="list-style-type: none">全国約140万世帯のひとり親の方に使っただけの商品になっているか全国約140万世帯のひとり親の方が使ったとして、エラー等が起きない商品か
実施内容(予定)	<ul style="list-style-type: none">株式会社小さな一歩に申込されたひとり親の問題調査(1万名以上)97名のインタビュー調査大学教授、議員との意見交換150名程度のソーシャル調査	<ul style="list-style-type: none">解決策について60名程度のひとり親に「この解決策が課題を解決できるか」ヒアリングひとり親支援団体に解決策についてヒアリング	<ul style="list-style-type: none">インタビュービジネスモデル、プロダクト等の仮説修正	<ul style="list-style-type: none">インタビュー機能、体験価値等の仮説修正

ペアチルの5ヶ年ロードマップ

アプリを基点にひとり親同士の支え合いから、適切な専門家・支援団体との出会い、円以外の経済圏の構築、ロビー活動を実施していく

アプリの初期機能開発

似た境遇のひとり親同士が簡単に出会えるためのマッチング機能、スムーズなチャットができる機能を開発する。

アプリ内の独自経済圏の構築 & スキルUP支援の開始

円ではなくアプリ内の独自通貨による困りごとの助け合いができ、日用品などの商品を買える経済圏を構築する

アプリ登録者数十万名のひとり親の声をもとにロビー活動

数十万名のひとり親の「今」困っていることデータを収集し、現状制度・法律を変革し、より豊かな生活が保証されるようロビー活動に注力。

アプリの機能拡充 & 適切な相談機関との接続

ポイントによって日用品・習い事などのサービスのクーポン券が交換できる、土業などの専門家や支援団体とひとり親が出会える機能開発。

多様なステークホルダーと共同で問題解決への挑戦(相利)

アプリ内のひとり親の困りごとや要望を抽出し、企業・自治体・非営利・議員などの関係者が協働できるようペアチルがデザインしていく。

2022年

2023年

2024年

2025年

2026年

教育学部で教員免許取得後、デジタルマーケティングのベンチャー企業に就職し、「マーケティング社会問題」をテーマに社会的企業を転々とした。元ZOZO前澤友作氏からの出資をうけ、養育費の未払い問題に挑む株式会社小さな一步のボードメンバーに参画後、養育費以外のことで困っているひとり親の方々の力になりたく一般社団法人ペアチル創業。



南 翔伍 / MINAMI SYOGO

バックグラウンド

- 相対的貧困家庭に生まれ、父が母と自身を暴力しつづけ、非行に走った(小2~中2)原体験があらゆる社会問題解決に命をつかうと覚悟した根底である
- 大学時代にNPO法人や自身で立ち上げた団体で活動し、収益モデルのある事業を作らないと、どんなビジョンがあっても、社会問題を解決できないと痛感した
- ソーシャルビジネスを展開する事業会社の経営を通して、ソーシャルビジネスづくりの困難さを深く知る

これまでに取り組んできた事業

- 大人の発達障害のある方への就労移行支援事業(発達障害に特化したWebメディア事業)
- 弁護士費用が払えず泣き寝入りしている被害者同士が会い、集団訴訟ができるプラットフォーム事業
- 行政委託による貧困家庭への学習支援事業
- 養育費保証サービス事業

団体名	一般社団法人ペアチル
所在地	東京都港区南青山2丁目2番15号
設立	2022年10月(2021年9月から任意団体として活動)
事業内容	<ul style="list-style-type: none">・ひとり親限定のチャットアプリ・ひとり親向けのイベント企画・運営・Webメディアを通じた啓蒙活動
理事	南 翔伍(代表理事) 松本 悠幹(理事) 松本 和子(理事)